

第123号

■発行日  
2024年7月10日  
■発行責任者  
大槻 研司  
■編集・印刷  
齋藤 馨

## 全市一斉清掃実施 約100名が参加

### 早朝からの作業 ご苦勞様でした

年間二回実施される全市一斉清掃作業は、六月二日早朝約百名の参加を得て実施しました。各班の



【大槻会長が挨拶と実施要領を説明】

代表者が集会所に集まり、町会役員から作業段取りの説明を受けました。箇所によっては側溝の蓋がなかなか外せず、町会が所有する専用道具を使用しての作業となりました。お陰様で怪我もなく終了するこ

### 全市一斉清掃へのご協力 ありがとうございました

大旦町会

会長 大槻 研司

六月二日(日)朝七時から約一時間、道路側溝の土砂上げや除草作業を、約百名の参加のもと、実施することができました。麻袋の数は一八六袋になり、改めて町会員の皆様のお力に敬服した次第です。本当にありがとうございました。



とができました。早朝からの作業大変有難うございました。



### 定例役員会開く

第一回役員会を四月二七日開催し、各部からこれまで実施の事業報告があった後、以下の取り組みについて協議しました。

一、東部地区自治振興協議会要望事項について

役員会で町内を調査し、改善が必要な所や、町会員から要望が出されている件について協議し、要望事項をまとめることとしました。

二、集会所清掃について  
①五月二六日  
対象は一〜二班の  
班長



②一〇月二〇日

対象は一三班〜二  
四班の班長

三、全市一斉清掃日について

六月二日(日)午前  
七時から実施

小公園がきれいに  
なりました

四月二七日(土)、町会役員が中心となり、福島市児童遊び場(小公園)の除草作業を行いました。この公園は余り知られていませんが、毎年三〜四回除草作業を行っています。滑り台とベンチしか設置されておりましたが、是非ご利用ください。



## 少年会総会で 年間の取組を決定

四月六日、育成部では今年度の取組を決定すべく少年会総会を開催し、六三名の児童が出席しました。

今年は一一名が入学され、みんなの仲間入りをすることになりました。伊藤澄子育成部長から「一年生は速く歩けないので、上級生がしっかりと自配せしてください」と挨拶がありました。

続いて大槻研司町会長から「新しく一年生になる皆さんおめでとうございます。私も皆さんと同じく町会長一年生なので、頑張ります。きれいな桜の花が咲くころに入学式を迎えます。お友達を



新しい役員の紹介と挨拶

安全指導をする井上武之さん



沢山つくつってください」と挨拶がありました。

引き続き、新入生紹介や年間活動計画の説明があり、伊藤育成部長から新一年生に対し、記念の図書カードが贈られました。

最後に町会役員で子どもを見守る会の会員でもある第六班の井上武之さんから、通学時の交通安全について指導がありました。この中で「こともー〇番」について、次の通りお話を聴きました。

- 何かあったら、このステッカーのある家に飛び込め！
- 体の具合が悪ければ、このステッカーの家にいれ！
- 自転車の通行は「左」、ヘルメット着用！

● 信号が青になっても、車がちゃんと止まったのを確認してから渡れ！  
子どもたちは真剣に耳を傾けていました。  
**皆さんよろしくね！**



育成部長の伊藤澄子さん(右)と育成副部長の齊藤聖子さん

### 四月から

活動しています！

子どもを見守る会新会員

### 第六班 尾形佐千夫さん

現在子どもを見守る会のおじさんは一一名ですが、この四月から尾形佐千夫さんが加わり、一二名体制になりました。今後ともよろしくお願いします。



## 町内さんぽ

綺麗な牡丹の花に見とれて思わずシャッターを押しました。第七班齋藤チエさんの庭先に咲いていました。撮影が四月二七日なので、遅くなりましたが、とても素晴らしいので、敢えて掲載させて頂きました。



## コラム

兄と布団の中で話しっこ

小学生の頃、寝る時はいつも二つ上の兄と布団が並ぶ。「今日は警からやって」と兄が言う。

「あるところに・・・怖い鬼が・・・」という具合に、自分の頭でにわかにかえたストーリーを兄に向かって話す。前もって考えた内容ではないので、時にはつじつまの合わないこともある。でも、別におかしいよとは言わないで聞いている。なかなかストーリーが考え付かず、無言が続くときもある。すると、兄が「じゃあ、こうしたらどうだべ？」と助け舟を出す。そんな風にして時間が経過し、何となく終わる。「今度はあんちゃんの番だ」と、こんな具合にお互いに話を作り、語り合いながら夜が更けていく。どちらからともなく眠りに落ちていく。

大人になった今、当時のことを思い出すと、なんて面白いことをしていたんだろうと、自分でも笑いが込み上げてくる。

私の兄弟は私を含めて六人だが、この兄とは年が近かったので思い出は沢山ある。中学・高校生になった頃は、大目作業場集会所で一一緒に卓球したこともあった。将棋は私が負けてばかり。その兄が県外に就職した時は、しばらくの間心が空っぽになってしまった。今は会津に住んでいるが、時々電話で近況を語り合っている。

【齋藤 馨】

